

# 茶病虫害防除情報

令和6年6月17日

【第10号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

夏茶の安定生産のための

## 二番茶後～三番茶芽生育期の病虫害防除対策

九州南部は、平年より10日間程遅い梅雨入りとなりました。愈々雨の季節になりますが、今年はこれからどのような梅雨気象になるか気掛かりです。

二番茶の収穫は、各産地とも終盤になってきました。二番茶後から三番茶芽生育期は高温・多雨・多湿の気象条件となり、病虫害の発生が最も多くなる時期です。今回は、二番茶摘採後から三番茶芽生育初期の病虫害防除対策についてお知らせします。

### ★ 病虫害の発生概要

二番茶は降雨の中での摘採・整枝となる場合が多く「やぶきた」園では、**輪斑病**発生のおそれがあります。6月の発生予察情報の伝染源病葉はやや多で「多」の予報です。**チャノカクモンハマキ**、**チャハマキ**は「多」「やや多」「早い」の予報で、二番茶後頃が若齢幼虫期で防除適期になります。次に、三番茶芽生育期は梅雨最盛期になり、このため「やぶきた」園などでは**炭疽病**の発生が多くなります。伝染源となる摘採残病葉は今後多くなると推察され、さらに降雨量は平年より多い予想などから発生は「多」の予報となっています。また、**黒葉腐病**も高温・多雨・多湿条件が続くこの時期に最も発生しやすく、「やぶきた」以外の品種も発生するので注意します。

また、害虫類も多くなります。発生予察情報では**チャノミドリヒメヨコバイ**「多」、**チャノキイロアザミウマ**「やや少」、**チャノホリカ**「やや多」「早い」予報ですが、特に梅雨明けが早いと三番茶芽生育後半は晴天になると思われますので**チャノミドリヒメヨコバイ**、**チャノキイロアザミウマ**の発生には注意が必要です。

### ★ 基本的対策・・・降雨による散布遅れにならないよう早めの予防散布

二番茶摘採後は、輪斑病は伝染源病葉の多い「やぶきた」園では防除が必要です。摘採・整枝直後に防除しますが、**ストロベリン系**薬剤の耐性菌が発生している地域では他系統の薬剤に替え、未発生地域でも使用回数は年1回に抑制します。ハマキ類の防除を第2世代に薬剤やハマキ天敵で行う場合は発蛾最盛日（フェロモントラップ）の9～15日後の若齢幼虫期に散布します。

三番茶芽生育初期の炭疽病・チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ・チャノホリカなどの防除は同時防除が効率的で、萌芽～1葉期頃に摘採7～10日前に使用できる薬剤で防除します。

### ★ 輪斑病・・・「多」

摘採・整枝作業で感染するので刈番茶摘採や整枝後出来るだけ早く薬剤散布して、防除します。直後散布で有効な薬剤と3日後までの散布で有効な薬剤があるので注意します。

★ **チャノカクモンハマキ** **チャハマキ**・・・「多」「やや多」 二番茶摘採後、若齢幼虫期に防除します。

### ★ **炭疽病**・・・「多」 **黒葉腐病**・・・「注意」

「やぶきた」園は防除が必要です。今後の樹勢に影響する摘採残葉を守るための防除で、萌芽～1葉期が適期で、散布遅れにならないよう防除します。黒葉腐病も同時防除できます。

★ **チャノミドリヒメヨコバイ**・・・「多」 **チャノキイロアザミウマ**・・・「やや少」

茶芽生育初期に加害をうけると被害が大きくなるので三・四番茶萌芽期頃に防除します。感受性が低下している薬剤があるので選択に注意し、地区の栽培暦採用薬剤で防除します。

★ **チャノホソガ**・・・「やや多」

1葉期頃に新葉の葉裏に産卵や葉潜り幼虫が多く認められる場合は直ちに防除します。発生時期が遅れ、2～3葉期以降の産卵では被害は回避されますので防除の必要はありません。

表 二番茶後～三(四)番茶芽生育初期の病虫害防除法 (太字剤は地区栽培暦採用)

病虫害 (防除時期)	防除薬剤	希釈倍数 (倍)	使用基準 使用時期・回数	使用上の留意事項
輪斑病 (二番茶摘採 ・整枝後)	ダコニール 1000	700～1000	10 日前 1 回	米国輸出茶園は使用不可。
	フロンサイト SC	2000	14 日前 1 回	摘採・整枝直後散布で有効。
	アミスター-20フロアブル(北有)	<b>2000</b>	<b>14 日前 3 回</b>	アミスターは輸出茶栽培園に使用可、耐性
	ニマイパー水和剤	1000～1500	14 日前 1 回	菌発生園は使用しない。何れも摘採・
	テフ°ロスフロアブル	1000～2000	14 日前 2 回	整枝 3 日後までの散布で有効。
炭疽病 黒葉腐病 (三番茶 1 葉期頃)	ダコニール 1000(曾有)	700～1000	10 日前 1 回	降雨前の予防散布が基本防除 輸出茶栽培園は使用不可。
	ダコニール 1000 + インタ°フロアブル混用	1000 8000	10 日前 1 回 7 日前 2 回	<b>本混用散布法は、降雨が続き、散布が 遅れた場合の緊急応用防除法である。</b>
(輸出茶栽培園) (有機栽培園)	ク°ロシール° (南北)	<b>500～700</b>	前日 —	銅剤の効果はやや低いので、降雨の多
	ムッシュホルト° (日種)	<b>500～1000</b>	7 日前 —	い時は 2 回散布する。
	Zホルト°	400	7 日前 —	
(トリンク茶栽培園)	ダコニール 1000 + インタ°フロアブル混用	1000 8000	10 日前 1 回 7 日前 2 回	1—2 葉期頃に散布する。
チャノミドリヒメヨコバイ	アグリメック (南種)	<b>1000</b>	7 日前 1 回	何れも米国輸出茶栽培園に使用可。
チャノキイロアザミウマ	テッパ°ン液剤(北始肝種)	<b>1000</b>	3 日前 1 回	薬剤抵抗性の発生を考慮し、同一系統
チャノホソガ	エグシレル SE (日曾有)	<b>2000</b>	7 日前 1 回	薬剤の使用は 1 回とする。
(三番茶萌芽-1 葉期)	スタークル顆粒水溶剤	2000	7 日前 2 回	3 種害虫の同時防除が可能。
ハマキムシ類 (二番茶・摘採後) (若齢幼虫期)	ファルコンフロアブル	4000～8000	7 日前 2 回	米国輸出茶栽培園に使用可。
	アフーム乳剤	1000～2000	7 日前 1 回	米国輸出茶栽培園に使用可。
	カスケト°乳剤	4000	7 日前 2 回	台湾、EU 輸出茶栽培園に使用可。
	スピ°ノエスフロアブル	2000～4000	7 日前 2 回	有機栽培園に使用可。
	チュンアップ°顆粒水和剤	2000	前日 —	有機栽培・輸出茶栽培園に使用可
	エスマルク DF	1000	7 日前 —	有機栽培・輸出茶栽培園に使用可

☆ 南…南薩 日…日置 北…北薩 始…始良 曾…曾於 有…有明 肝…肝属 種…種子島

三番茶期頃に発生する病害虫



摘採（整枝）切口に発病した輪斑病



輪斑病菌 分生子



チャノミドリヒメコバイ 成虫



チャノミドリヒメコバイ 激発被害芽



チャノキイロアザミウマ 被害芽



チャノキイロアザミウマ 成虫



炭疽病 初期病斑（感染 15 日後頃）



黒葉腐病 ぶつ状に発生